

1. 調査報告概要表

作成日 平成 19年 6月 19日

【評価実施概要】

事業所番号	4670103946
法人名	有限会社 ウインドマジック
事業所名	グループホーム ショコラうすき
所在地 (電話番号)	鹿児島市宇宿町2120番地 (電話)099-275-7075

評価機関名	NPO法人 自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6
訪問調査日	平成19年6月12日

【情報提供票より】(平成19年 6月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16年 10月 1日
ユニット数	2 ユニット
職員数	14 人
利用定員数計	18 人
常勤	14人, 非常勤 0人, 常勤換算 14人

(2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨 造り	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	6畳36,000円、8畳45,000円	その他の経費(月額)	24,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	250 円	昼食 450 円
	夕食	300 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要(6月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性 6 名	女性 12 名
要介護1	4 名	要介護2	3 名
要介護3	5 名	要介護4	4 名
要介護5	2 名	要支援2	0 名
年齢	平均 84.1 歳	最低 68 歳	最高 95 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	今村病院分院、ふるたクリニック、市来歯科、富山皮膚泌尿器科
---------	-------------------------------

外部評価機関 NPO法人 自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅街の中にある2階建ての1～2階がグループホームで、1階部分には通所介護事業所、2階部分には宅老所が併設され、通いから泊りまで利用者が安心してサービスを受けることができるよう、馴染みの関係づくりを重視した取り組みがなされている。職員は、家族や地域の方々には気軽に集う場所として、利用者には「一日一日を大切に」自分らしい時間を過ごしてもらえるように支援している。又、入居者の思いやワンポイント介護、行事案内等をのせたホームたよりを毎月作成し、町内会に回覧している。地域の方々との交流を深め、理解と協力を得ながら地域介護ナンバーワンを目指して取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	入居者の権利義務については、書面で本人家族へ追加説明している。適切なケアと技術の向上に向けて、入居者個々のケア手順書や調理の手順書を作成し、改善課題への取り組みがなされている。研修も計画的に行なわれ改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価が、自らのケアのあり方を振り返る契機となるように、職員全員で取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は未実施のため、今後の取り組みに期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族に何でも話せるよう面会時に積極的に声かけを行っている。また、家族会の中で意見や要望を出してもらったり、年2回アンケート調査を行なって、改善項目について職員全員で話し合い、運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入して地域の行事に参加したり、ホームの文化祭や夏祭りには地域の方が参加している。毎月ホーム便りを町内会に回覧することでホームへの理解や協力も深まり、ボランティアの来訪者も増えている。また、地域の小学校の職場体験学習の受け入れや交流を持ちながら、地域との連携が密になるよう積極的に取り組んでいる。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

主任調査員 山下賀子 調査員 伊地知由美

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)取 組みを期待 したい項目	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの事業所全体の理念の見直しを行い、「高度なケアと利用者に満足してもらえるサービスを提供し、地域医療福祉サービスを構築し、地域介護ナンバールンを目指す」という独自の理念をつくっている。		利用者、家族に分かりやすいように表示することが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、毎日の朝礼の中で理念や方針に基づいてより具体的なケアについて話し合いを持ち、皆で理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し毎月「ショコラたより」を回覧して、地域の人々の理解や協力を得ており、夏祭り、球技大会、運動会等入居者と共に参加したり、ホームの文化祭に地域から参加してもらったりしている。近くの小学校からプルタグを集め、車椅子を寄贈してもらったお礼に、ベルマークを還元するなど交流が図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員は、自己評価や外部評価の意義を理解し、自己評価を全職員で行なっている。昨年の外部評価の要改善項目についても皆で検討し、家族にも書面で伝えたりと改善が図られている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族に対しては年2回アンケート調査を行い、サービスの質の向上に活かしている。運営推進会議はまだ実施されていない。	○	幅広い立場の人が参加する運営推進会議を持ち、助言等を得ながら地域に開かれたサービスとして質の確保を図るよう、今後の取り組みが求められる。

グループホームショコラうすき

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)取 組みを期待 したい項目	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談員の受け入れを年2回行っているが、ホーム側から市の担当者への積極的な情報提供等は行われていない。	○	市担当者に事業所の取り組み状況を伝えたり、運営推進会議への参加の呼びかけを行い、連携を図りながら協力関係を築いていくことが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行の「ショコラたより」は、入居者別に職員からのコメントや写真を載せたものを郵送したり、来所時はアルバムやビデオの鑑賞ができるよう配慮している。金銭管理は立替実費請求の方法をとり、必要時は家族に予算を説明し報告も行なっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や年2回の家族会の中で意見交換を行い、さらに年2回家族アンケートを無記名方式で実施して、排泄ケアの方法、職員の接遇、外出や行事の希望、ハード面や環境整備面等家族の意向を出してもらいながら、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	同じ建物の中に通所介護、宅老所、グループホームを有しており、職員異動は1年～半年とローテーションがある。利用者は全ての職員と馴染みの関係にあり、交流の幅も広がっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員を育てることの重要性を意識しており、年間の研修計画以外にも職員がテーマを決め、毎月勉強会を行なっている。新入職者には各階の主任、副主任が中心となり育成する体制がとられている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国や市のグループホーム連絡協議会に加入しているが、地域の同業者と交流する機会は少ない。	○	管理者や職員は地域の同業者との相互訪問等を通じて交流を持ち、ネットワークの強化を図ることにより、サービスの質の向上に取り組むことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)取り組みを期待したい項目	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者には、管理者が自宅に出向き、自宅の環境を把握し、家との連携を大切に対応している。希望者には見学も受け入れている。通所から宅老所のショートステイ、入居もできるシステムがある。又、入居後も自宅迄の外出を繰り返しながら、馴染んでもらうよう働きかけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	梅干作り、生花、裁縫、園芸、三味線、大正琴など本人の得意分野を発揮してもらうなど、一緒に楽しみながら支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、入居者の思いや希望を聞いたり家族の要望を取り入れながら、本人の意向を重視した支援を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の生活の中で本人・家族等の意向を把握し、担当者会議の中で職員も意見を出し合いながら、入居者本位の介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎にモニタリングによる評価を行い、介護計画の見直しが行なわれている。状況変化に応じた随時の見直しもできている。		

グループホームショコラうすき

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)取 組みを期待 したい項目	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多 機能性を活かした柔軟な支援 をしている	本人家族の状況に応じて病 院受診、外出の支援、2週間 に1回の往診など、支援され ている。又、建物内の通所介 護や宅老所も利用し、在宅復 帰後も継続した支援が受け られる体制にある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切 にし、納得が得られたかかり つけ医と事業所の関係を築き ながら、適切な医療を受けら れるように支援している	かかりつけ医の選択は、本人 及び家族の意向を最優先とし ている。通院時は家族とのつ ながりを保つためにも家族の 同行を原則としているが、困 難な場合は家族の了承のもと で職員が代行している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり 方について、できるだけ早い 段階から本人や家族等ならび にかかりつけ医等と繰り返し 話し合い、全員で方針を共有 している	重度化した場合や終末期のあり 方については、「緊急時の対応 及び看取りに関する指針」に 明示し、本人や家族の希望を 優先するよう説明を行うと共 に、協力医療機関との連携体 制も整えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシー を損ねるような言葉かけや 対応、記録等の個人情報の取 り扱いをしていない	管理者は、日々のケアの中で 個別的な支援方法や言葉使い について職員と話し合いをもち 、入居者のプライバシーの確 保の徹底を図っている。又、 個人情報の取り扱いについても 研修を行い職員の理解を促し ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先 するのではなく、一人ひとりの ペースを大切に、その日をど のように過ごしたいか、希望 にそって支援している	一人ひとりの体調に配慮しな がら、食事・入浴・散歩・外 出等本人の希望やペースにあ わせた柔軟な支援を行っている。		

グループホームショコラうすき

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)取り 組みを期待 したい項目	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎週日曜日の昼食は、入居者の希望を取り入れたメニューになっている。食事の準備から後片付けまで個々の力量に応じて一緒に行なっている。食事中も会話をしながら楽しく食事ができるよう支援している。外食にも月1回出かけている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴を基本としているが、希望があれば毎日入浴可能であり、拒否時は清拭や足浴を行っている。拒否の強い方には声かけの工夫や家族の協力をもらいながら支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備や片付け・洗濯・掃除・裁縫・生け花・三味線・家庭菜園・梅干作り等日常生活の中で、本人の得意分野を発揮してもらう機会を作りながら楽しんで生活できるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の状態や希望に応じた毎日の散歩や買い物、月1回皆でワゴン車等を利用した外出や外食を行なっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、日中は鍵をかけず見守りながら対応している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署と連携し、年2回の消防訓練を実施している。又、地域消防分遣隊所属の職員もおおり、災害対策の勉強会も行なわれている。地域住民の協力が得られるよう日頃より付き合いを大切に働きかけている。地震や台風に備えてのマニュアルも有り、井戸による地下水の確保、食料も備蓄されている。		

グループホームショコラうすき

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)取 組みを期待 したい項目	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は管理栄養士によりカロリー計算され、献立表にも明示している。食事摂取量を記録し、毎月体重測定を行いながら状態把握に努めている。個々に合わせた食事形態や食器・スプーンも工夫されている。水分は1日1200ccを目安に補水の支援を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には円卓やソファーが置かれ、室内はエアコンで快適に調節され、音や日差しにも留意している。テーブルには季節の花が飾られ和やかな雰囲気である。又、入居者の作成した装飾品や小物も展示されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に自宅訪問して、部屋の雰囲気を参考にしながら家族とよく相談し、本人が混乱しない居室作りを行っている。ダンスや椅子、テレビ、仏壇、布団、扇風機等が持ち込まれ、希望者には畳部屋が用意されるなど、本人が居心地よく過ごせるよう工夫されている。		